



西山富三郎議員

幼児教育のねらい・内容・計画は

13名の委員で9月中に示す

問 子どもの成長を促す

ことは、すなわち脳を育てる仕事といっても間違いない。脳の成長するプロセスからみて3歳までの環境づくりが特に大切であり、遅くとも8歳ごろまでにその後の人生を豊かに過ごすための基礎を作ることが望ましいと考えられている。

幼児教育振興計画の

- (1) ねらい・内容・計画。
- (2) 共同保育は。
- (3) 道徳性の芽生えを培う取り組みは。
- (4) 共育者(共に育つ者)として保育士・保護者・地域の連携は。
- (5) 保育所は大学と同じくらい大事なところと思うが。

答 (山田教育長)

(1) 先般専門家・町内関係者13名で構成する「幼児教育振興計画策定委員会」

を設置した。第1回委員会を6月中旬に開催し、9

月中旬に結論を出したい。

(2) 健全児と障害児が同じ仲間として共同保育していくことは大切である。

本町では全保育所対応できる。本年度は、御

来屋・大山・下中山・光徳の4保育所で行っている。

(3) 基本的な生活習慣や他人に対する思いやり、社会的マナーなどの能力を

培うためのあらゆる場面で取り組んでいる。

また児童クラブなどの場面でも道徳性の芽生えとその育成に配慮している。

(4) 県・西部地区の保育協議会や県教委主催の研修会をはじめ全国保育研究会などに参加をし研修をはかっている。

保育士・保護者・地域住民が同じ視点で子ども

たちの成長に取り組むことは大切であり工夫を重ねている。

ねている。

(5) どの子どもたちも豊かに伸びていく可能性を持っていると信じている。

特に乳児から幼児期にかけては人間形成の基礎を培う極めて重要な時期

である。保育所・家庭が連携を密にして幼児教育

課の成果につなげていきたい。

盆踊りは大切な郷土芸能 スポットをあて传承する

問 大山西郷踊り伝承会

(旧名和町)は昨年12月4

日、鳥取県総合芸術文化祭第3回鳥取県民謡まつりに出演し、踊り・口説き共に好評を博した。町誌・民俗分野に盆踊りが記載されると思う。

(1) 「さいご踊り」と書くのか、「西郷踊り」と書くか。

隠岐の西郷町はどういうっているか。

(2) 米子盆踊りは鳥取県無形文化財の指定を受けている。元祖は、旧名和町・旧大山町と聞いている。

盆踊りの起源をどのように認識しているか。

(3) さいご踊りの口説き歌は何曲ぐらいあるか。

収録保存されているか。

なければ新しく収録保存されたい。

(4) 盆踊りはすぐれた郷土芸能である。行政・教委・町民こぞって伝承に努めるべきではないか。

答 (山田教育長)

(1) 名和町誌にはどちらとも記載されていない。大山西郷では「さいご踊り」「サイゴ踊り」と記載されている。

中山町誌には、伯耆西部つまり西部の農村から生まれた踊りというような意味を持っているなどの記載がある。

隠岐の西郷公民館に聞き取りを行ったところ、

現在も盆踊りは盛んであるが隠岐自身は西郷踊りと呼んでいないと言っている。

「さいご踊り」「さいご踊り」「西郷踊り」一定でないと思う。

(2) 盆踊りは江戸時代の末期ごろから始まったようであるが断定はできない。

(3) 口説き歌は5・6曲ぐらいかと思う。

町教委は収録した資料は持っている。

県教委文化課が昭和50年代ごろに録音しているので問い合わせ中である。

収録保存については検討したい。

(4) 町内には現在、所子盆踊り保存会・大山町盆踊り保存会・さいご踊り保存会などいくつかある。町誌記載だけでなく資料収集、記録保存に取り組み、伝承しながら文化の還元をしていきたい。



子どもと一緒に盆踊り